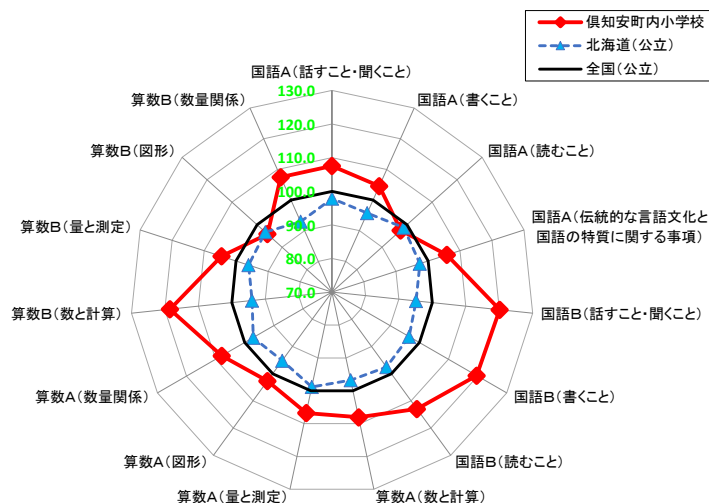


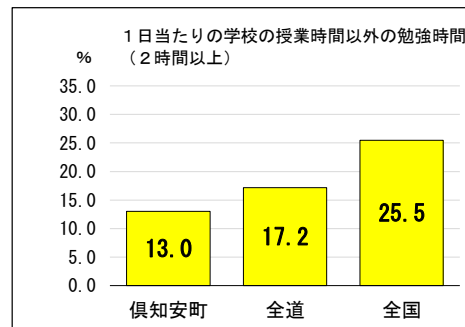
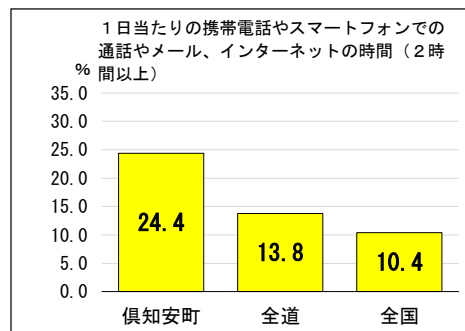
■ 倶知安町内小学校の状況及び学力向上策（学校数：5、児童数：115名）

【教科全体の状況】

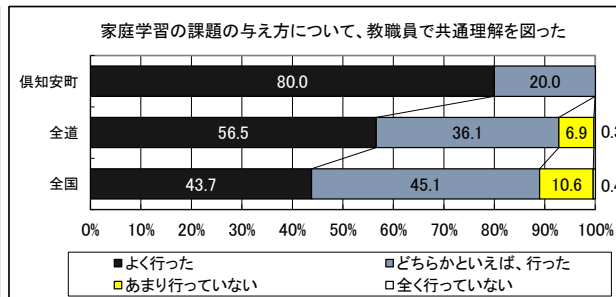
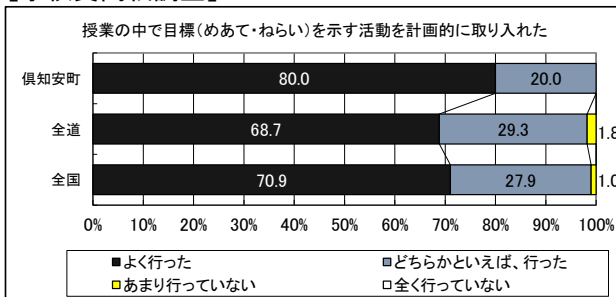
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【児童質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」、Bでは、すべての領域で、全国を上回っている。 ○ 算数Aでは、すべての領域、Bでは、「数と計算」「量と測定」「数量関係」で、全国を上回っている。	○ 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた結果、児童の学力向上につながり、ほぼすべての領域で全国及び全道を上回ったと考えられる。
児童質問紙	○ 「1日当たりの携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの時間が2時間以上」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回っている。 ○ 「1日当たりの学校の授業時間以外の勉強時間が2時間以上」と回答した児童の割合が、全国及び全道を下回っている。	○ 家庭学習の与え方について、教職員で共通理解を図ったものの、1日の携帯電話やスマートフォンの使用時間が、全国及び全道を上回っていることや、学校の授業時間以外の1日の勉強時間が全国及び全道を下回っていることから、家庭と連携し、家庭学習の習慣化に向けた取組を充実する必要があると考える。
学校質問紙	○ 「授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合が、全国を上回っている。 ○ 「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」と回答した学校の割合が、全国及び全道を上回っている。	

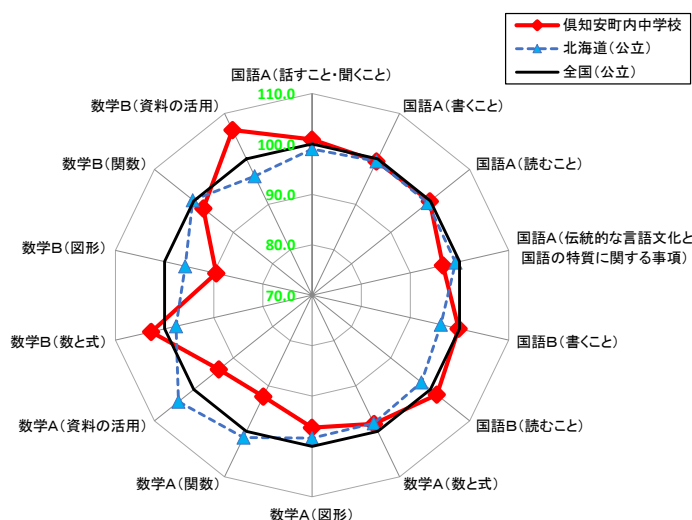
【倶知安町の学力向上策】

- ◎ 学校と連携した「学校力向上に関する総合実践事業」の推進
- ◎ 学習支援員の配置による特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援の充実
- ◎ 高等学校英語教諭の小・中学校への乗り入れ授業等「小中高英語連携事業」の推進
- ◎ T・Tや習熟度別指導など多様な指導方法の工夫

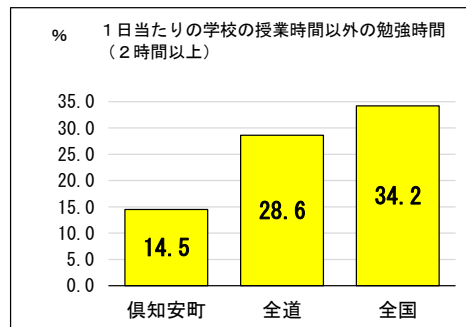
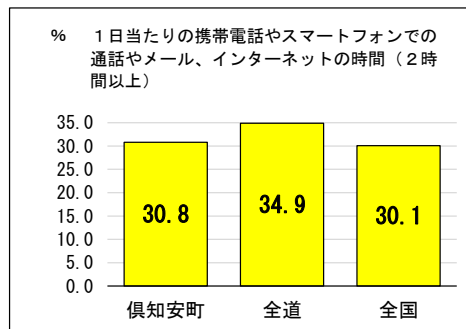
■ 倶知安町内中学校の状況及び学力向上策（学校数：1、生徒数：106名）

【教科全体の状況】

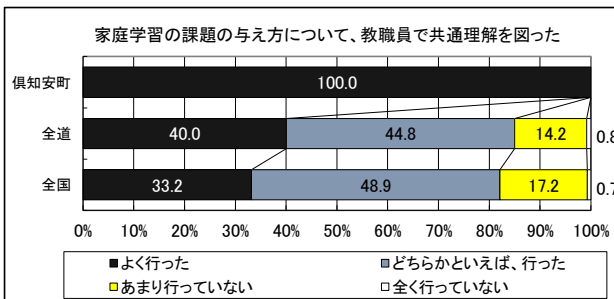
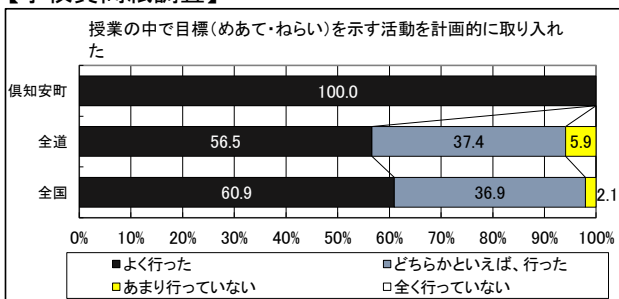
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【生徒質問紙調査】



【学校質問紙調査】



【分析】

教科	○ 国語Aでは、「話すこと・聞くこと」、Bでは、「読むこと」で、全国を上回っている。 ○ 数学Bでは、「数と式」「資料の活用」で、全国を上回っている。	○ 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れるなどの授業改善を進めたことにより、基礎的・基本的な内容の確実な定着につながり、国語及び数学の一部の領域で、全国及び全道を上回ったと考えられる。
生徒質問紙	○ 「1日当たりの携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの時間が2時間以上」と回答した生徒の割合が、全国を上回っている。 ○ 「学校の授業時間以外の1日の勉強時間が2時間以上」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を下回っている。	○ 家庭学習の与え方について、教職員で共通理解を図ったものの、1日の携帯電話やスマートフォンでの通話やメール、インターネットの時間が、全国を上回っていることや、学校の授業時間以外の1日の勉強時間が2時間以上の生徒の割合が、全国を大きく下回っていることから、家庭と連携し、家庭学習の習慣化を図る必要があると考える。
学校質問紙	○ 授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた。 ○ 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解をよく図った。	

【倶知安町の学力向上策】

- ◎ 学校と連携した「学校力向上に関する総合実践事業」の推進
- ◎ 学習支援員の配置による特別な教育的支援を必要とする児童生徒への支援の充実
- ◎ 高等学校英語教諭の小・中学校への乗り入れ授業等「小中高英語連携事業」の推進
- ◎ T・Tや習熟度別指導など多様な指導方法の工夫